

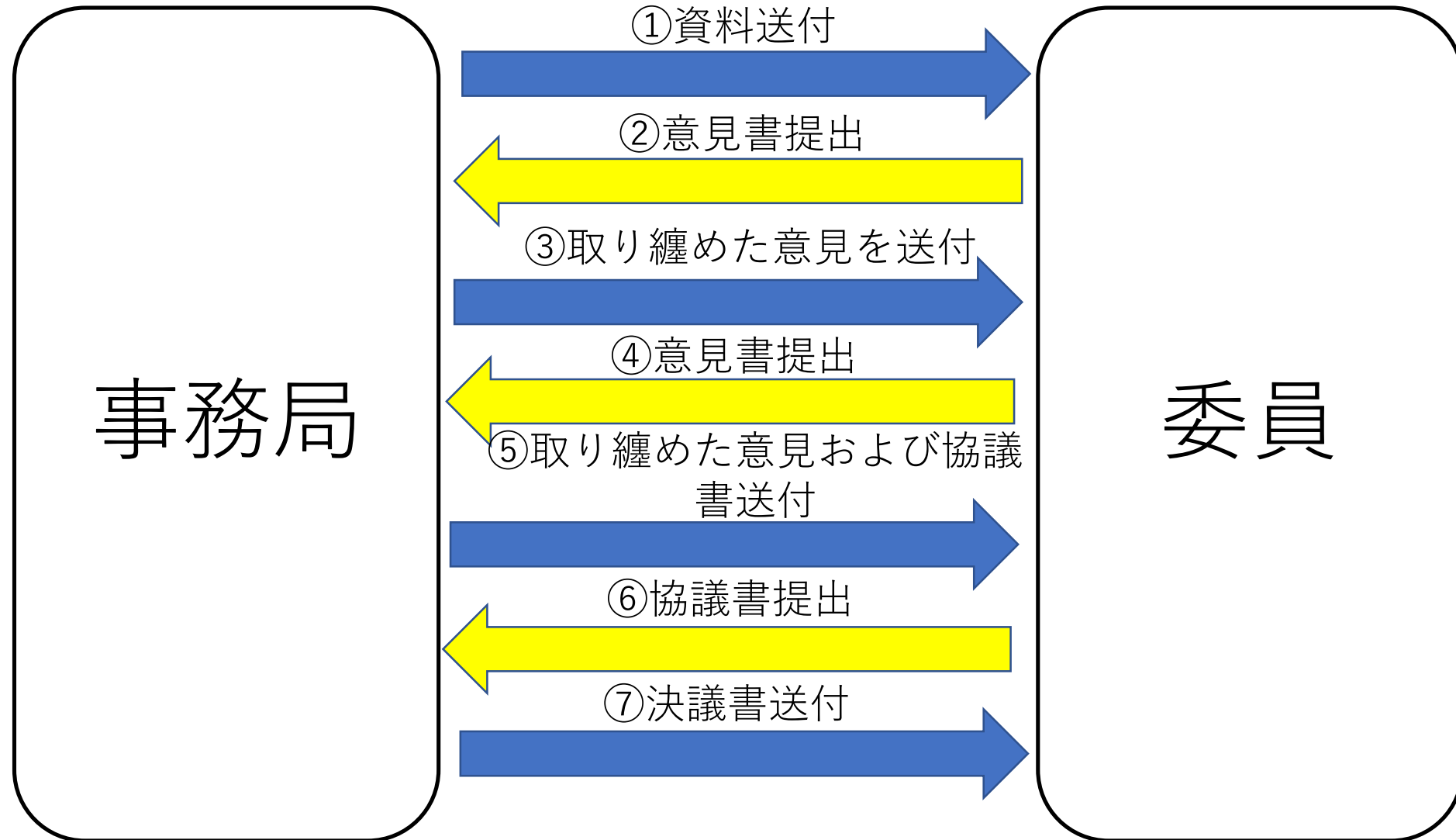
令和4年度 第1回
船橋市地域精神保健福祉連絡
協議会

書面会議

書面会議の進め方

- ①事務局から開催日前に書面会議資料を送付。
- ②送られた資料をご覧いただき、各委員から別紙意見書にて意見を頂く。
- ③各委員から頂いた事務局で取り纏めた意見を一覧表にし、各委員へ送付する。
- ④意見の一覧表を見ていただき、追加の意見があれば再度意見書にて御意見をいただく。
- ⑤事務局で取り纏めた意見を一覧表にし、協議書とともに送付。
- ⑥協議書を事務局へ送付。
- ⑦決議内容を各委員へ送付。

書面開催のイメージ図



本日の議事内容

【報告事項】

- ・委員の変更について

【議題】精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について

- ①令和3年度 of 取組みについて報告
- ②令和4年度 of 取組み（案）について
- ③当事業の呼称（案）について
- ④目標値の達成状況について
- ⑤次年度以降の追加委員について意見聴取

【報告事項】 委員の変更について

- 船橋東警察署生活安全課長に新たに小栗健路氏が着任されました。これを受け令和4年4月1日付で小栗委員に変更となっています。
- 委員名簿については次頁のとおりです。

委員名簿（令和4年4月1日付）

※今回変更委員は太字

区分	氏名	役職名
医療機関	矢口 高基	一般社団法人船橋市医師会 理事
	樋口 英二郎	公益財団法人復光会総武病院 院長
	小松 尚也	医療法人同和会千葉病院 院長
	南 雅之	医療社団法人健仁会船橋北病院 院長
訪問看護事業所	横山 恭子	ふなばし市訪問看護連絡協議会 副会長
家族会	犬石 志保子	オアシス家族会 代表
精神保健福祉関係機関・団体	鈴木 洋文	船橋市精神保健福祉推進協議会 会長
	長島 由和	船橋市社会福祉協議会 常務理事
	野々下 次郎	船橋市福祉サービス公社 常務理事
	住吉 則子	船橋市地域活動支援センター 施設長
	清水 博和	船橋市基幹相談支援センター「ふらっと船橋」 所長
就労関係事業所	申 美娟	障害者就業・生活支援センター「大久保学園」 主任就業支援員 支援員
関係行政機関	田中 翔	船橋警察署生活安全課 課長
	小栗 健路	船橋東警察署生活安全課 課長

【議題】

- 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業について

【議題①】 令和3年度の取組みについて

- 連絡協議会
 - 推進部会（実務者会議）
 - 委託事業
- ①精神障害者の地域移行・地域定着関係職員に関する研修に係る事業
- ②入院中の精神障害者の地域生活支援に係る事業
- ②精神障害者の家族支援に係る事業

【議題①】 連絡協議会（令和3年8月5日実施）

【決議事項】 リムラッド（地域精神保健医療福祉資源分析データベース）を用いた船橋市の現状と課題を共有。今後目指すべき目標値を設定。

【目標値】

- ①入院後3カ月未満の退院率を72%以上とする。
- ②入院後1年未満の退院率を92%以上とする。
- ③地域定着日数を316日以上とする。
- 目標達成する上での課題および課題解決の具体的な取組みにつて、推進部会（実務者会議）で協議することになった。

【協議会で出た課題】

- 治療中断者への医療継続に向けた支援について
- 支援関係者間の情報共有のあり方について
- 認知症も含めた地域支援と連携について

【議題①】 推進部会（実務者会議） 令和3年10月26日オンライン開催

- 協議内容：

- ①代表者会議および令和3年度事業内容について共有

- ②船橋圏域における個別支援課題の抽出
（主な意見）

入院中の関わり、社会資源の情報不足、精神障害者本人の身近な相談相手から適切な援助機関への橋渡し、精神障害者に対する市内関係者の理解や対応力不足、病院以外の緊急避難場所不足、など。

【議題①】 推進部会（実務者会議） 書面開催

- ・ 実施経緯：
 - ・ 不慣れなオンライン開催で、効率的な会議進行や意見発表が困難。
 - ・ 予定時間内に意見や方向性がまとまらなかった。
 - ・ 具体的かつ多様な意見を集めることで、構成員相互の共通理解や関係構築を深められる期待を感じた。
⇒ 第2回部会に向けて効率的に意見収集を行うため、実施に至った。
- ・ 照会内容：
 - ・ 船橋圏域における個別支援課題（後述）に関する意見
 - ・ 当事業の呼称
 - ・ （架空事例を用いて）精神障害者本人の入退院や地域生活における各機関の介入可能な時期や援助内容、事例への気づき

【議題①】 推進部会（実務者会議） 令和4年2月22日オンライン開催

- 協議内容：

- ① 船橋圏域における個別支援課題の合意形成

- 「（A）入院中の精神障害者の退院後の環境調整や支援における
関わり方（時期）の検討」

- 「（B）精神障害者本人の相談を援助者間で適切に橋渡しできる
仕組みの検討」

- 「（C）精神疾患・精神障害に関する普及啓発の促進、対応
能力向上の機会の検討」

- 「（D）精神疾患の病状悪化時や、病状悪化に備えた
医療機関以外の避難先の検討」

【議題①】 推進部会（実務者会議）

令和4年2月22日オンライン開催

- 協議内容：

- ②各個別支援課題に関する具体的な取り組みの協議検討
(テーマ)

- 表を用いて、各機関の介入可能時期を共有
- 居住支援機関や短期入所事業所の説明による社会資源情報の共有

- (主な意見)

- 退院率の向上、安定した地域定着を実現させるため、入院中から退院後の環境調整が重要
- 支援者同士で、どの支援者が、どの時期に、どのような支援内容で関われるかが共有不足。これが入院期間を長期化させたり、地域生活に支障を来して病状悪化や再入院を助長させたりする
- 連携や橋渡しが不十分、仕組みの強化が必要。

【議題①】 推進部会の成果

- <共有・合意事項>
 - ・各地域支援者の障害者本人への関わりで大事にしていること
 - ・船橋圏域における個別支援課題
 - ・部会を構成する地域支援者の介入時期や方法
 - ・個別支援課題の解決に向けたポイントは、精神保健福祉関係者の顔の見える関係、機関の特性や援助内容の相互理解の促進、入院中から地域生活に関わる援助者間の橋渡しや連携方法、対応能力等を向上する機会、と共有
 - ・地域支援者の対応能力向上、連携関係の構築等のため、部会構成員による事例検討会を行っていく方針

【議題①】 委託事業の取組みについて

- 次頁以降に令和3年度に実施した委託事業について報告します。

船橋市精神障害にも対応した 地域包括ケアシステム構築推進事業

～ 委託事業の報告 ～



船橋市地域活動支援センター オアシス

三村 尚子

委託事業の内容（ねらい）

1. 入院中の精神障害者の地域生活支援に係る事業

精神科医療機関等に入院中の患者を対象に、包括的な相談支援の実施等、地域生活支援に係る取組みに努める。（ピアサポーターとの交流機会）

2. 精神障害者の地域移行・地域定着関係職員に対する研修に係わる事業

精神科医療機関、障害福祉サービス事業所、介護保険サービス事業所等の職員に対し、精神障害者の地域移行・地域定着に関する保健・医療・福祉の相互理解を促進するため、地域の関係者と協働し、研修の実施に努める。

3. 精神障害者の家族支援に係る事業

精神障害者の家族が地域包括ケアシステムに対する理解を深めるとともに、家族が安心して、精神障害者本人に対する支援や家族同士の支援ができるよう、家族支援に努める。

1. 入院中の精神障害者の地域生活支援に係る事業（令和3年度の内容）

市内3病院の患者とオアシスパiaサポーターとの交流会

- ▶目的：ピアサポーターが船橋市内外の精神科病院に入院中の患者様に自らの体験を語り、地域の社会資源等の話をする事で退院後の生活の不安の軽減等を図る。
- ▶方法：Webで実施
 - スライドを用いてオアシスの施設紹介
 - 事前質問や当日に入院患者一人ずつより質問をうかがい、ピアサポーターが返答
- ▶実施回数（参加人数）：5回（計25名）

1. 入院中の精神障害者の地域生活支援に係る事業

市内3病院の患者とオアシスピアサポーターとの交流会

- 患者さんからの質問や反応
 - ・ 生活面、経済面（金銭管理や使い方）、福祉サービス（グループホーム）についての質問
 - ・ リモートが新鮮で楽しかった、分からない事を聞けて良かったとの感想

- 交流会を実施した病院からの感想
 - ・ 思っていた以上に質問が出た。
 - ・ 自分達で幅を広げた質問が出来ていた。
 - ・ 集中して参加出来ていた。

2. 精神障害者の地域移行・地域定着関係職員に対する研修に係わる事業

1) 福祉施設見学会

- 目的：市内精神科病院職員を対象とし、地域の社会資源や当事者理解を深める
- 内容：市内の精神科病院職員を対象に退院後に利用できる障害福祉サービス事業所（就労継続支援B型、生活介護事業所、就労移行支援事業所、地活Ⅰ型）の見学、ピアサポーターとの交流を実施

2) 訪問看護事業者向け研修（Web）

- 目的：前年度船橋市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進部会で、訪問看護従事者の質の確保や普及啓発活動の一環として検討され実施
- 訪問看護連絡協議会と共同で研修会を実施（当事者の体験発表、質疑応答）

2. 精神障害者の地域移行・地域定着関係職員に対する研修に係わる事業

3) 病院PSWと相談支援事業所の研修

相談支援事業所に対するアンケートを実施

4) 一般相談支援事業所との研修

地域移行支援の取り組みについて意見交換会を実施

事業を実施していない事業所より理由をうかがい、対策を検討

5) GH連絡協議会との研修

GHに精神障害のケース対応や研修テーマについてアンケートを実施

3.精神障害者の家族支援に係る事業

➤ 目的：当事者家族の不安軽減や啓発

- 1) 内容：オアシス家族会とピアサポーターとの交流会を実施
- 2) 病院内家族教室へのピアサポーター派遣（コロナのため中止）



【議題①】 令和3年度の取組みについて

- 令和3年度の取組みについて、御意見がございましたら意見書にてご回答願います。

【議題②】 令和4年度の取組み（案）について

- 令和4年度の取組み案について次頁以降にお示しします。

【議題②】 令和4年度の取組み（案）について

- 代表者および実務者会議で出た意見を踏まえた課題および取組み(案)

実務者会議で出た課題	課題解決の取組み案
<ul style="list-style-type: none">・ 退院後、地域支援をする上で関係機関の役割が不明瞭・ 地域支援をする中で、状況悪化時の対応方法や連携が不十分・ 本人との関係構築には早期介入が必要	<p>①退院前カンファレンスの更なる推進。</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 支援関係者間で退院後の役割が明確になる。・ 状況悪化時を想定した支援プランを事前に共有できる。・ 早期に本人と関係構築をはかり、退院後の支援をスムーズに行うことができる。・ 地域支援体制が整うことで、早期の退院率の向上および地域定着推進に寄与する。
<ul style="list-style-type: none">・ 他機関がいつ、どのようなタイミングで支援を行うのか分からず連携できていない。・ 精神障害者への対応方法が十分に行えていない。	<p>②関係機関同士で定期的な事例検討会を行う。</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事例を通し、他機関の支援内容やその意図、理由等を理解することで、実際の連携スムーズに行うことができる。・ 支援の対応方法を学ぶことでスキルアップを図る。・ 地域連携や対応力向上が図れることで、地域定着推進に寄与する。

【議題②】 令和4年度の取組み（案） について

- 代表者および実務者会議で出た意見を踏まえた課題および取組み(案)

実務者会議で出た課題

- ・ 医療機関以外の避難先、特に支援家族が一時的に入院する等、支援者が不在時の避難先が課題。
- ・ 避難先について支援者間で情報や理解不足のため利用や連携に至っていない。

課題解決の取組み案

③避難先施設職員を講師に招き支援者対象の研修会を実施する。

【メリット】

- ・ 支援者間で避難先の利用の仕方や役割を理解することで、必要な方を適切に避難先へ連携することができる。
- ・ 地域定着推進に寄与する。

代表者会議で出た課題

- ・ 治療中断者への治療継続に向けた支援について
- ・ 支援関係者間の情報共有のあり方について
- ・ 身体合併症と認知症も含めた地域支援と連携について

課題解決の取組み案

④令和4年度の実務者会議（10月、2月）で課題共有し、課題解決に向けた取組みを検討します。取組み案については、次年度の代表者会議で検討します。

【議題②】 令和4年度の取組み（案） について

【取組み⑤】 委託事業について

事業名	事業内容
1. 入院中の精神障害者の地域生活支援に係る事業	・ピアサポーターが精神科病院入院患者に自らの体験を語り、地域の社会資源等の話しをする交流会を実施（院内もしくはweb機器）。
2. 精神障害者の地域移行・地域定着関係職員に対する研修に係る事業	・福祉施設見学会 ・訪問看護事業者向け研修（ピアサポーターによる講演会等） ・病院職員、地域福祉サービス事業所等との研修（事例検討会や地域移行に関する映画上映およびディスカッション）
3. 精神障害者の家族支援に係る事業	精神科患者家族会との交流会 （ピアサポーターとの交流会、精神疾患を抱える家族への研修）

【議題②】 今後のスケジュールについて（案）

項目	令和4年度	令和5年度
医療	<p>【実務者会議での検討事項】</p> <p>①治療中断者の治療継続に向けた支援について（地域での見守りも含む）</p> <p>②支援関係者の情報共有のあり方について</p> <p>③身体合併症と認知症も含めた地域支援と連携について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会を実施 ・退院前カンファレンスの推進 ・ピアサポーターと入院患者との交流会
様々な相談窓口		<ul style="list-style-type: none"> ・保健所、基幹相談支援センター、さーくる、障害者成年後見支援センター等
障害福祉・介護		<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学会 ・地域移行、地域定着関係職員に対する研修 ・家族支援事業
社会参加、地域の助け合い（普及啓発）		<ul style="list-style-type: none"> ・船橋市精神保健福祉推進協議会事業 ・普及啓発講演会
住まい		<ul style="list-style-type: none"> ・避難先職員による支援者向けの研修会 ・グループホーム職員を対象を含めた地域福祉サービス事業所等との研修

→ 上記のとおり実施していくことよろしいでしょうか。

代表者会議で報告します²⁸

【議題②】 令和4年度の取組み（案）について

- 令和4年度の取組み（案）および今後のスケジュールについて、御意見がございましたら意見書にてご回答願います。

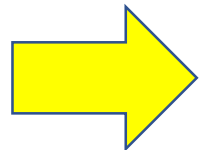
【議題③】 当事業の呼称について

- 昨年度の代表者会議で「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業」の呼称「にもケア事業」について、もう少し相応しい呼び名がよいのでは？との意見が出た。
- 「包括ケア事業」との意見も出たが、既に高齢者の「包括ケア事業」が存在し、精神障害者への適用を踏まえた名称がよいという意見もあり、再検討することとなった。
- 代表者会議後、千葉県や国の会議での使用状況を確認すると、「にも包括事業」の表現が多かった。
- 呼称について実務者会議でも議案としてあげ、次頁のとおり意見聴取した。

【議題③】 当事業の呼称について

実務者会議で出た意見

- 「精神包括」（既にある高齢者の会議名と被らないように）
- 「にも包括」（呼称より内容も検討する場にしたい）
- 「精神包括ケア」（精神障害者を対象とした地域包括ケアシステムのため）
- 「精神包括ケア事業」（精神障害者を対象としていることから、呼称に「精神」というワードが必要）
- 「障害対応包括ケア」（何に対応しているか明記した方がよいから）



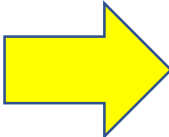
呼称について委員の皆様から御意見願います。

【議題③】 当事業の呼称について

- 当事業の呼称について、どのような呼び名がいいか意見書にて御回答願います。

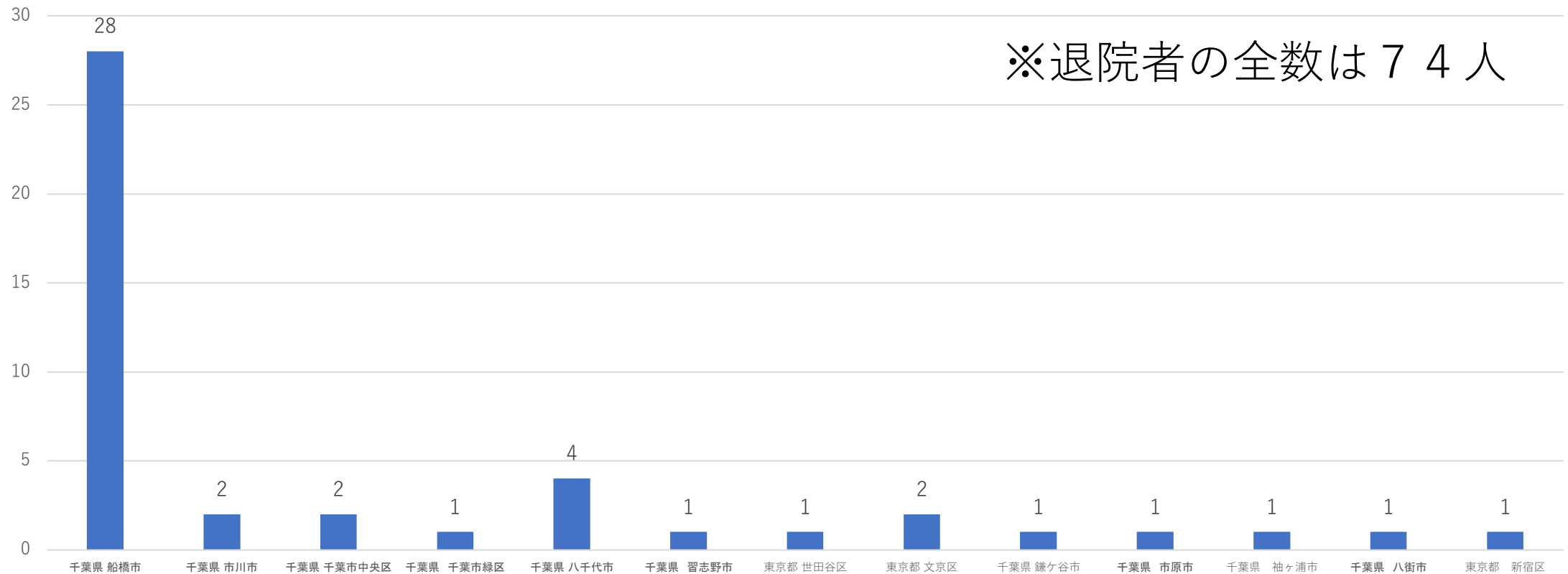
【議題④】 目標値の達成状況について

- 入院3か月未満の退院率
- 入院後1年未満の退院率
- 人口10万対入院1年以上在院者数

 令和元年6月30日時点と今回（令和2年6月30日時点）の状況を比較します。

【議題④】 入院後 3 か月未満の退院者数 (令和元年 6 月 3 0 日時点)

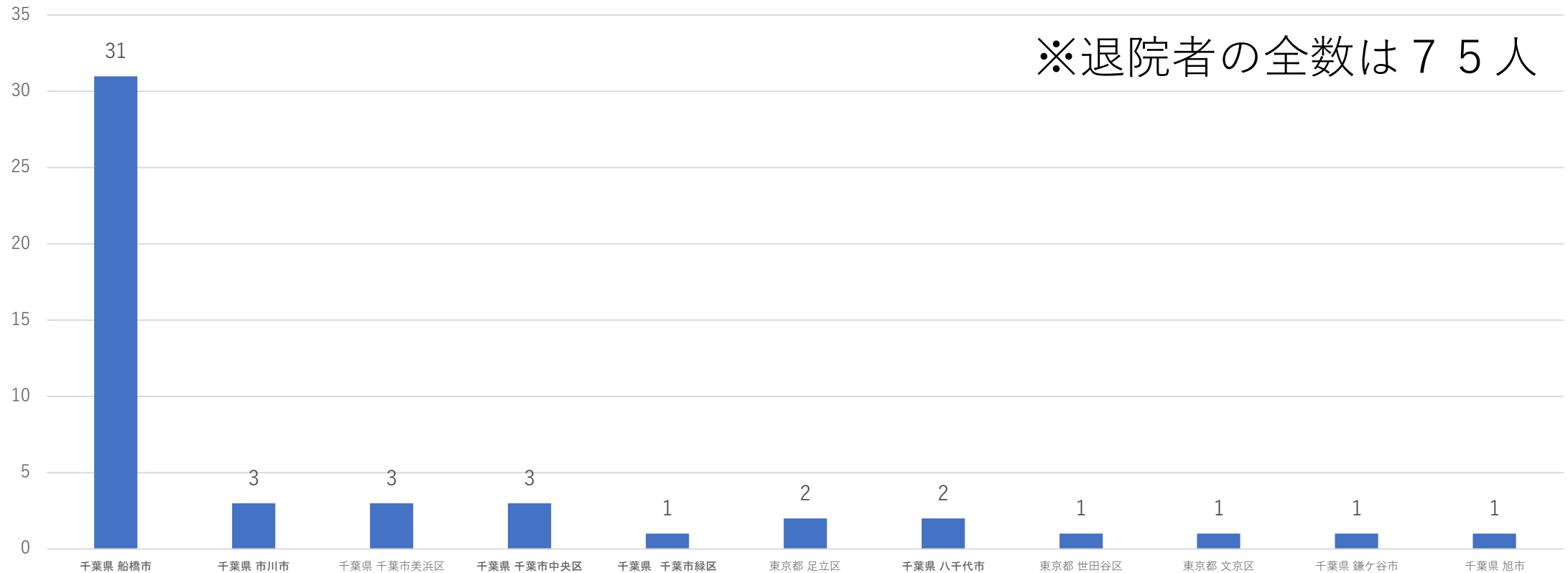
令和元年6月30日時点 入院3か月未満の退院者数 (46人)



入院後 3 か月時点での退院率は 6 2 % (4 6 人 / 7 4 人 × 1 0 0)

【議題④】 入院後 3 か月未満の退院者数 (令和 2 年 6 月 3 0 日時点)

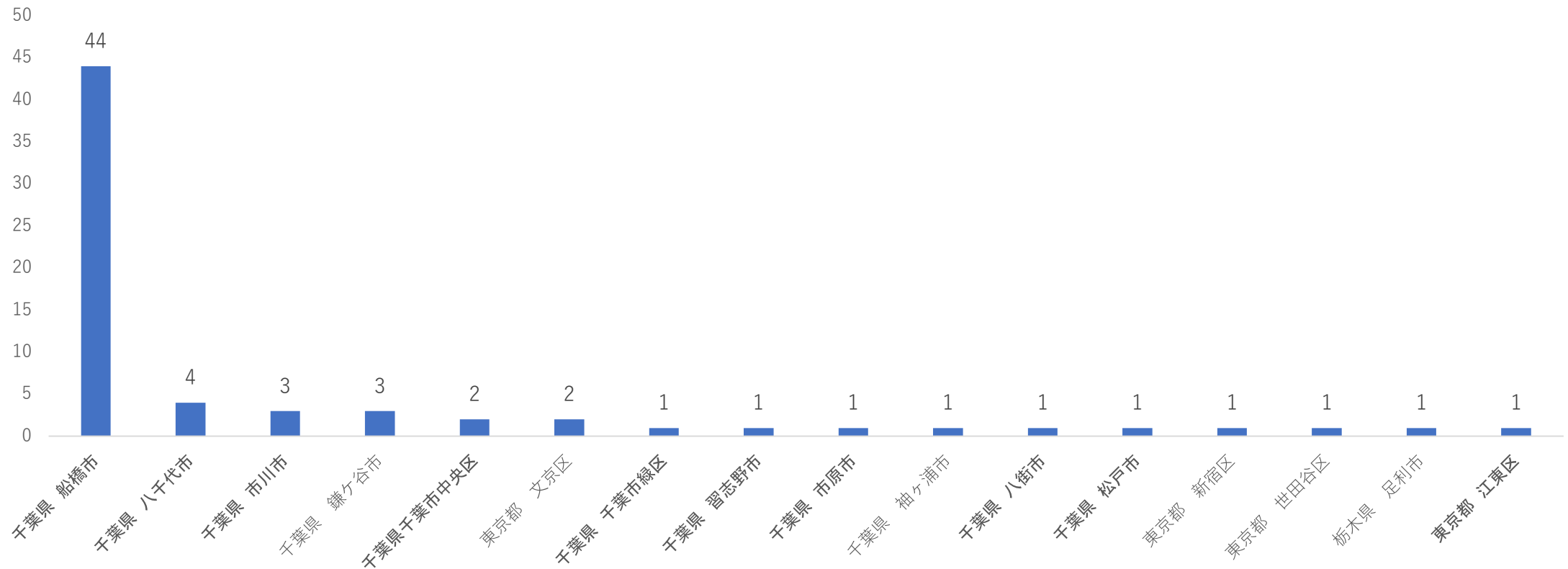
令和2年6月30日時点 入院3か月未満の退院者数 (49人)



入院後 3 か月時点での退院率は 6 5 % (4 9 人 / 7 5 人 × 1 0 0)

【議題④】 入院後1年未満の退院者数 (令和元年6月30日時点)

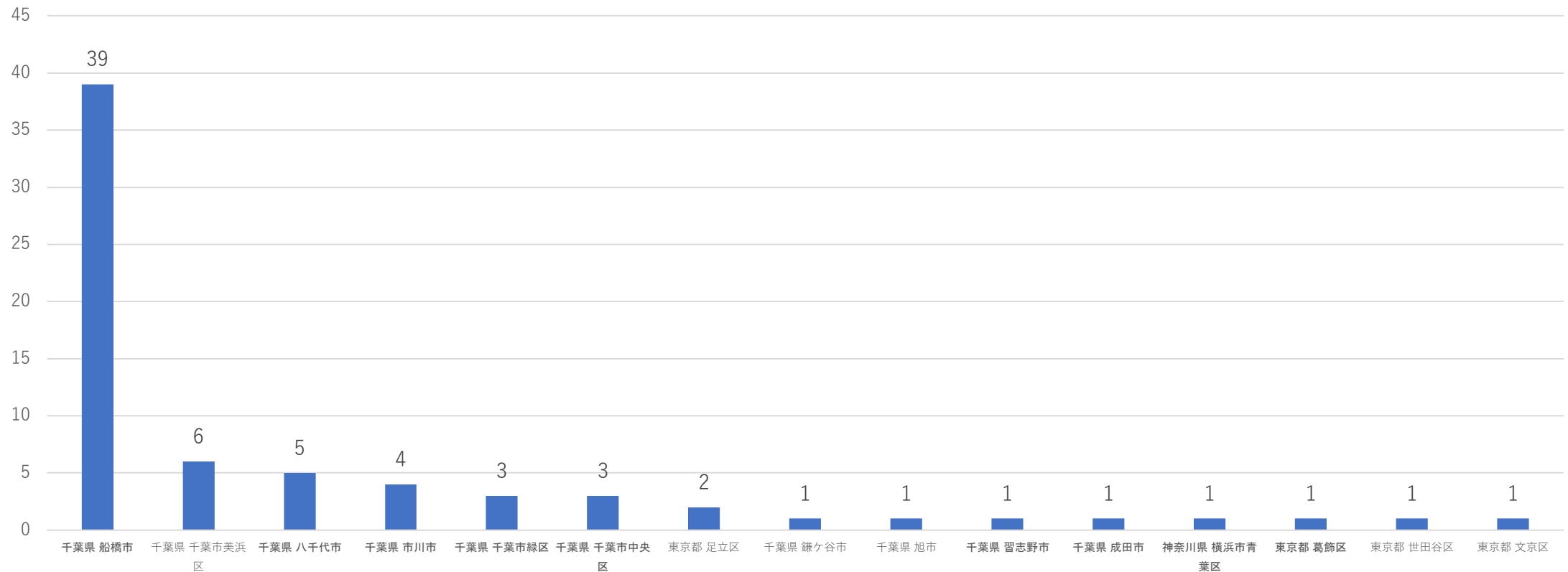
令和元年6月30日時点 入院後1年未満の退院者数 (68人)



入院後1年時点での退院率は91.8% (68人/74人×100)

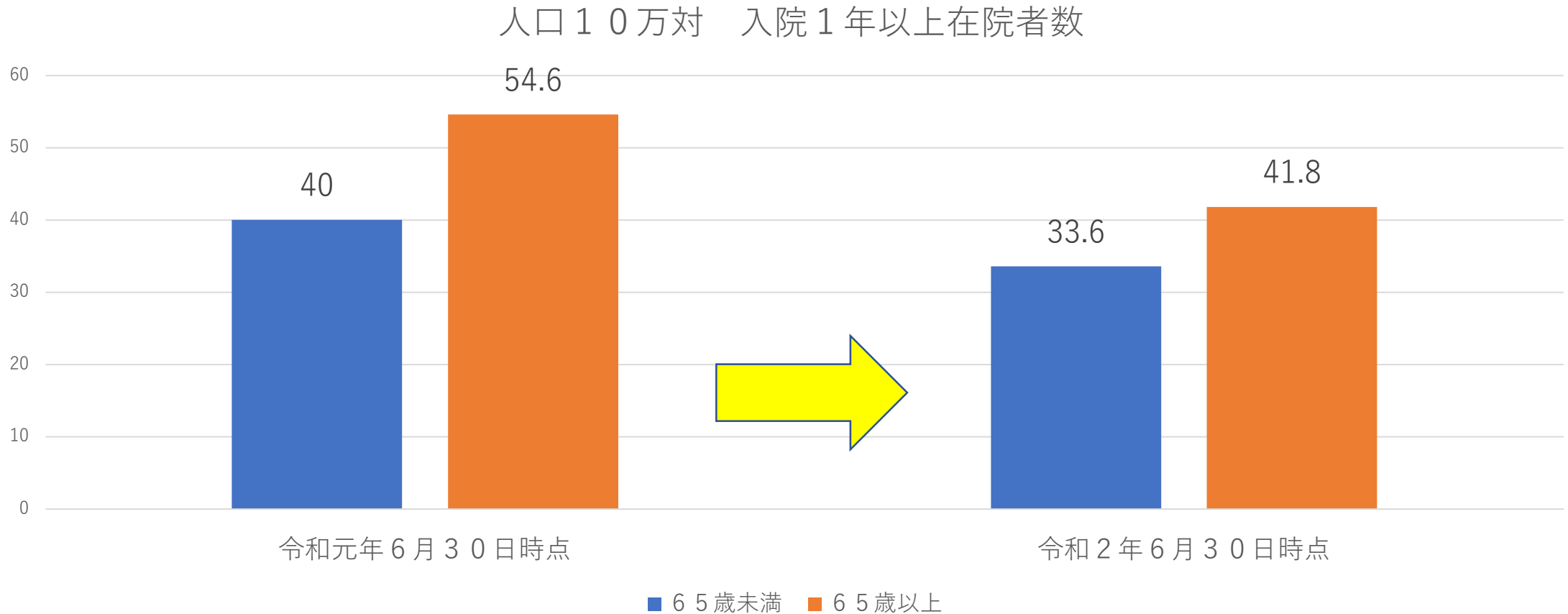
【議題④】 入院後 1 年未満の退院者数 (令和 2 年 6 月 3 0 日時点)

令和2年6月30日時点 入院後1年未満の退院者数 (70人)



入院後 1 年時点での退院率は 9 3 . 3 % (7 0 人 / 7 5 人 × 1 0 0)

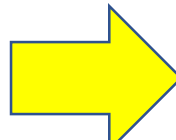
【議題④】 人口10万対 入院1年以上 在院者数



人口10万対の入院後1年以上の在院者数は、65歳未満は40人→33.6人、65歳以上は54.6人→41.8人と減少している。

【議題④】 評価

- 入院後3カ月未満の退院率は62%→65%と上昇。
- 入院後1年未満の退院率は91.8%→93.3%と上昇。
- 人口10万対入院1年以上在院者数は65歳未満が、40人→33.6人、65歳以上が54.6人→41.8人と減少。

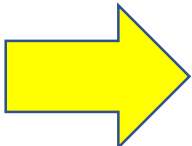
 いずれの項目も前年より退院率が上昇している。
次年度以降もモニタリングし、単年度と複数年合算で算出する。

【議題④】 目標値の達成状況について

- 目標値の達成状況について、御意見がございましたら意見書にて御回答願います。

【議題⑤】 次年度以降の追加委員について 意見聴取

- 昨年度の代表者会議で、委員から治療中断した方の治療継続に向けた支援について、課題として挙げられた。
- 支援者が拒否された場合でも、昔から顔なじみの地域住民であれば相談を希望することがある。また安否確認が必要な場合については、地域の見守りが重要である。
- そこで、次年度以降の委員に民生委員協議会を追加することを事務局として提案したい。また民生委員には、地域での見守り以外にも、本人が安心して生活できるよう地域共生や地域住民への普及啓発の効果も期待できる。

 次年度の委員に民生委員協議会を加えることよろしいでしょうか。

【議題⑤】 次年度以降の追加委員の 意見聴取について

- 次年度以降の追加委員として、民生委員協議会を加えることよろしいか、皆様から御意見願います。